

編集後記

『真実心』第二十五集をお届けします。本集には、平成十五年度に行われました新入生対象の学長講話ならびに宗教講座の講話が収められています。

さて、皆さんは、本学で仏教を学ばれ、宗教講座を聴かれたわけですが、仏教および宗教を見直すきっかけになったのではないのでしょうか。

仏教は、『広辞苑』に、

仏陀の説いた教え。世界三大宗教の一。前五世紀頃インドのガンジス川中流地方に興った。仏陀釈迦牟尼の説法に基づき、人間の苦悩の解決の道を教える。修行に専心する出家教団のほかには在家信者たちも多かった。阿育(アシヨールカ)王の入信によってインド全土から国外へも広まり、一世紀ごろから東アジアの諸方に及んで現在に至り、欧米にも知られている。インドにおいて大乘・小乗の区分が生じたが、中国や日本では風土的特色を加味した種々の宗派が発生・発展した。

とあるように、長い歴史の中で国を越え海を越えて伝わってきました。

このような仏教は時空間を越えて、いまなお現代の私たちに実に多くのことを教えてくれます。ご存じのように現代社会はまさに様々な問題を抱えています。その根底には、仏教の精神でもある命の尊さを現代人が忘れかけているということがありませんか。

一連のご講話で教わったことを、これからの人生に役立てられることを期待します。最後になりましたが、ご多用の中、ご講話下さいました先生方に厚く御礼申し上げます。

(編集委員)